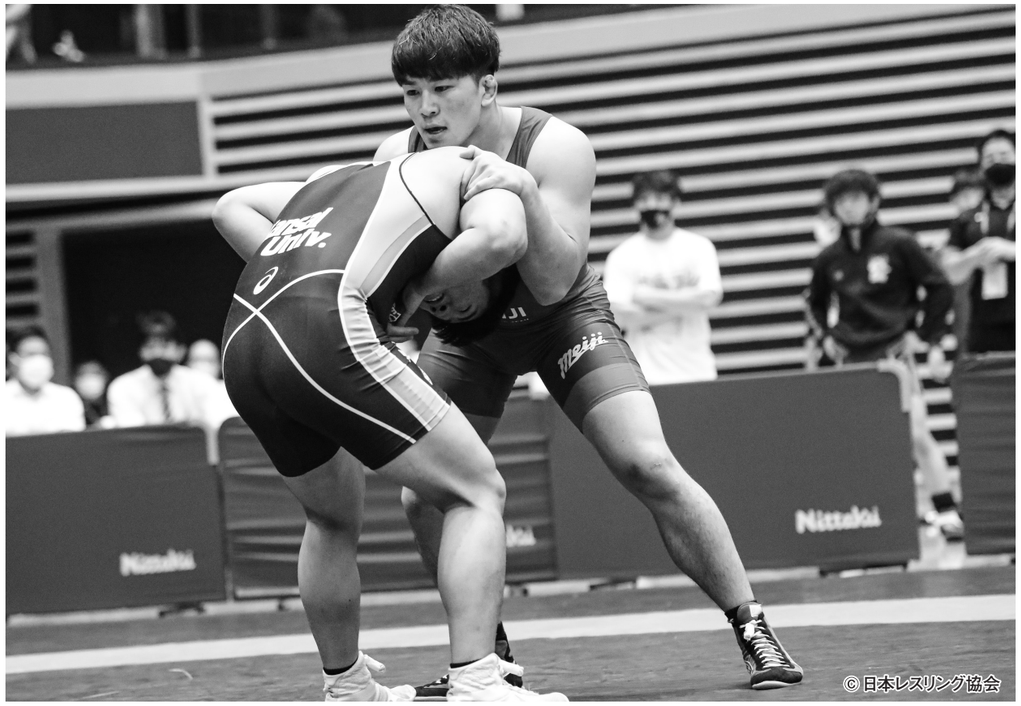
闘虎 Wrestling

No. 6 6
群馬県レスリング協会広報紙
令和４年　春季号



© 日本レスリング協会

群馬の祝い！岩井知史ＪＯＣ優勝！

ＪＯＣジュニアオリンピックカップ

４月23～24日、横浜武道館において「ＪＯＣジュニアオリンピックカップ」が行われた。群馬の選手が多数出場した同大会で、グレコローマンスタイル87kg級に出場した岩井知史（前橋西ー明治大２年）が、初戦で日本体育大学の選手にフォール勝ちすると、波に乗り決勝進出。決勝戦では、前橋西高時代の恩師・増谷一樹監督の母校である関西大学の選手を破り、見事優勝。岩井は、中学時代は柔道の選手として鳴らし、その潜在能力を増谷監督が見出し、前橋西高でレスリング開始。本人の真摯な努力により、高校時代は関東大会第３位。明治大学進学後、ＪＯＣ優勝という形で、その潜在能力を証明した。岩井は、この優勝により、ブルガリア・ソフィアで開催されるＵ20世界選手権（８／15～21）に、日本代表として出場する権利を得た。

◆発行／群馬県レスリング協会会長　金子博　◆編集／群馬県レスリング協会広報委員会

クラブ探訪

レスラーファクトリーを訪ねて

第66回　大泉高校

今年百十周年の伝統校！起こすぞ！大番狂わせ！

3年　主将　小林　春輝

大泉高校は、今年で創立百十周年を迎える伝統校であり、レスリング部はその歴史の中で、モントリオールオリンピック金メダリストの高田裕司先生をはじめ、多くの先輩方が努力し、数多くの実績を残してきました。先輩方の活躍は、後輩の私たちにとって目標であり、励みとなっています。

現在は、顧問の山本悟先生指導のもと、選手６名、マネージャー１名で日々活動しています。部員の多くは、高校に入学してからレスリングを始めた選手ですが、山本先生も一緒に練習に加わり、技術指導やスパーリングなど、一人ひとり丁寧にアドバイスしてくれるおかげで、確実に全員が上達しています。近年は、他校と比べると部員数が少ない状況ですが、全員が目標意識を高く持ち、日々成長できるよう頑張っています。

今年度の目標は、団体戦・個人戦においてレスリング関係者の予想を覆す大番狂わせ、ジャイアントキリングを起こすことです。チームとしての目標を達成するためにも、大会までの日々の練習を無駄にせず、チーム一丸となって戦いたいと思います。

SCHEDULE

■全国中学生レスリング選手権大会
６月10日（金）～12日（日）
アダストリアみとアリーナ

■全日本選抜レスリング選手権大会
６月16日（木）～19日（日）
駒沢公園体育館

■全国少年少女レスリング選手権大会
７月29日（金）～31日（日）
代々木競技場第１体育館

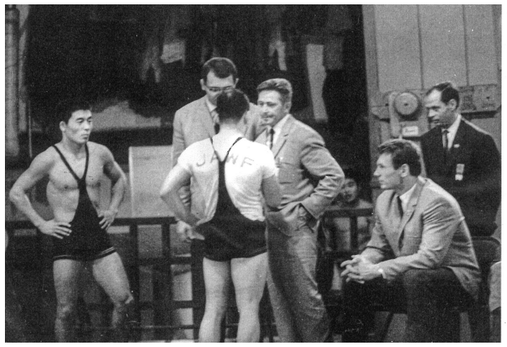
■インターハイ
８月１日（月）～４日（木）
高知県立県民体育館

■群馬県スポーツ少年大会
８月７日（日）
千代田町総合体育館

ノスタルジーレスリング

～思い出の一葉～

森田　武雄さん（館林市・79歳）



□この写真は昭和39年10月、私が大学４年の時の一枚です。この日、明大レスリング部の練習に、東京オリンピック後のソ連チームが訪れました。左のツリパン姿が私、中央の後ろ姿は明大の笠原茂監督、椅子に座っているのが、東京五輪金メダリスト・アレクサンダーイバンスキーです。私は、世界選手権で優勝した経験があり、その中で、ソ連の選手とは何度も対戦したり、今でいうロシアやウクライナ、ベラルーシに遠征したこともあり、随分と交流しました。ソ連のレスラーはみな紳士で、お互い敬意を払って交流し、嫌な思いは一度もしたことはありません。元々は同じ国であるウクライナに、ロシアが侵攻したことは、私には全く理解できません。プーチン大統領は、山下泰裕氏と親友で、柔道の心得があるはずです。「自他共栄」の精神を思い出してほしいですね。

横浜に虹登る！五味虹登MVP獲得！

JOCジュニアオリンピックカップ

（表紙に続き）JOCにおいて、U20グレコローマンスタイルでは、育英大の五味虹登（山梨jr―甲府城西高―育英大1年）が優勝を果たし、オリンピックゴールドメダリストを獲得するとともに、世界ジュニア選手権の出場権を得た。また、「明和のカレリン五代目」坂上翔瑠（明和―館高2年）が決勝進出。決勝では敗れたものの、銀メダルを獲得し、U17アジア選手権（7月19～22日・キルギス）の出場権を得た。優勝した岩井知史の前西高の後輩である大谷丈は、第3位入賞を果たした。

オリンピックゴールドメダリスト賞を獲得した五味選手

入賞者は、次のとおり。

【U20フリースタイル】◇97kg級 ②佐々木優太（育英大） ③大谷丈（前橋西）

【U20グレコローマン】◇55kg級 ③増田壮兼（育英大） ◇60kg級 ①五味虹登（育英大） ◇72kg級 ③本名一晟（育英大） ◇87kg級 ①岩井知史（明治大）

【U17グレコローマン】◇65kg級 ②坂上翔琉（館林）

育英の躍進止まらず！3階級金メダル獲得！

ジュニアクイーンズカップ

4月9～10日、駒沢オリンピック公園体育館において「ジュニアクイーンズカップレスリング選手権大会」が行われた。JOCでは、男子が3人入賞を果たしたが、クイーンズカップでは、3人の女子選手が優勝。育英大学の躍進振りを見せつけた。

優勝者は次のとおり。

【U20】◇55kg級 ①清岡もえ（育英大） ◇59kg級 ①元木咲良（育英大） ◇68kg級 ①石井亜海（育英大） ②小林久美（福岡大） ◇72kg級 ②藤倉優花（育英大）

左から元木咲良、清岡もえ、石井亜海の３王者

上村朋也は8強入り！館林高校8強ならず！

全国高校選抜大会

3月27～29日、新潟東総合スポーツセンターにおいて「風間杯全国高校選抜大会」が行われた。昨年度、同大会で第3位入賞を果たしている上村朋也は、2回戦から登場。熊本県、福岡県の選手を破って、ベスト8進出。準々決勝では、第2位になった石川県の選手に惜敗。2年連続のメダルはならなかった。

団体戦に出場した館林高校は、松江工業（島根県）、北部農林（沖縄県）を破ったが、3回戦でいなべ総合学園（三重県）に惜敗。8強入りはならなかった。

なでしこGUNMAのレスクイーン

おおたスポーツ学校
澤井　舞綾さん（中２）

父の知人がレスリング経験者で、太田市にもレスリングクラブがあると聞いて、見学に行き、面白そうなのでやってみようと思いました。レスリングをやってよかったことは、精神的にタフになったこと、それと、家族みんなが、私や弟を送迎してくれたり、応援してくれたりしてくれて、感謝の気持ちが持てるようになりました。合同練習や合宿は、苦しかったけど、それで友達もたくさんできました。ライバルは、パレイストラの梅澤野乃花さんです。これからの目標は、中学の大会では、まだ勝っていないので、まず、1勝することです。

育英大が1部初登場！古豪強豪を次々撃破！

東日本学生リーグ戦

5月18～20日、駒沢公園体育館において「東日本学生リーグ戦」が行われた。令和元年、2部リーグ優勝を果たし、1部昇格を決めたが、3年待たされた育英大は、グループAに組み込まれ、日体大に0―7、中大に2―5で敗れるも、明大に5―2で勝利し、「9―12位」順位決定リーグへ。青山学院大に3―4で惜敗も、東洋大、神奈川大に4―3で競り勝ち、勝ち点の差で総合第9位となった。1部リーグ戦初出場で、古豪と渡り合った育英大の躍進振りは、日本レスリング協会HPでも大きく扱われた。

団体戦は館高が圧勝！個人戦Fは6階級V！

群馬県高校総体

5月13～15日、ダノン城沼アリーナにおいて「群馬県高校総体」が行われた。団体戦「名勝負数え歌」館林vs市太田は、館林が5―2で勝利。個人戦フリーでは、8階級中6階級を館林が獲る独占ぶり。グレコローマンでは、前橋西と市太田が2階級で優勝した。

団体戦の順位と個人戦の優勝者は次のとおり。

10年連続36度目の優勝を飾った館林高校！

【団体戦】①館林　②市太田　③大泉　③館林商工

【個人戦フリースタイル】◇51kg級 小林楓駕（館林） ◇55kg級 山口想成（館林） ◇60kg級 川端健太（館林） ◇65kg級 山田康介（館林） ◇71kg級 上村朋也（館林） ◇80kg級 加藤遥空（市太田） ◇92kg級 小林靖弥（館林） ◇125kg級 大谷丈（前橋西）

【個人戦グレコローマン】◇51kg級 小林楓駕（館林） ◇55kg級 山口想成（館林） ◇60kg級 山田康介（館林） ◇65kg級 真塩悠（前橋西） ◇71kg級 上村朋也（館林） ◇80kg級 加藤遥空（市太田） ◇92kg級 早川海己（市太田） ◇125kg級 大谷丈（前橋西）

【女子】◇軽量級 横尾瑠衣（西邑楽） ◇中量級 原口真優（市太田）

HERO'S IN GUNMA

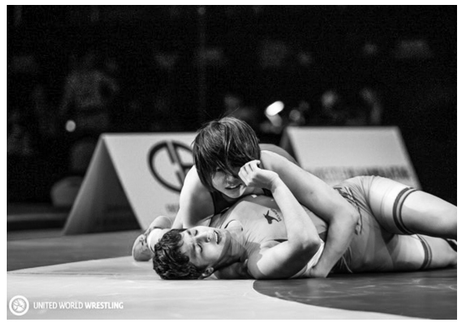
岩井　知史　選手
（明治大学）

同年代の選手が主の大会だったので、絶対優勝するという気持ちで臨みました。優勝は初めてだったので、嬉しかったです。高校時代、応援に来てくれたり、車を出してくれたりして支えてくれた家族に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。世界ジュニアでの目標は、入賞です。今までとは違う、レベルの高い世界の選手ですが、十分の力が試せる場なので、力を出し切りたいと思います。

世界王者の櫻井つぐみアジア選手権完全V！

アジア選手権

4月19～24日、モンゴル・ウランバートルにおいて「アジアレスリング選手権大会」が行われた。世界選手権で55kg級で優勝している櫻井つぐみ（育英大）は、アジア選手権では57kg級に出場。1回戦、韓国にテクニカルフォールで好発進すると、2回戦でカザフスタンにフォール勝ち。3回戦は、モンゴルを5―0で退け、準決勝はウズベキスタンにテクニカルで勝利し、決勝進出。決勝ではインド選手にフォール勝ちし、無失点の完全優勝を果たした。



世界王者はアジアでは余力を残す優勝！

【女子】◇57kg級 ①櫻井つぐみ（育英大）